

令和5年5月定例記者会見

令和5年5月1日（月）午後2時～

<主な発表項目>

○ 「2023となみチューリップフェア」について

2023となみチューリップフェアが4月22日（土）に開幕し、フェア史上初の開幕初日に「満開宣言」をした。4月末で20万人を超える多くの方々にご来場いただき、大変賑わっている。これは、コロナの規制緩和や花の開花が早いというPR効果とともに、天候に恵まれたことはもちろんであるが、テレビ局・新聞各社に積極的に情報発信していただいたおかげであると感謝している。特に、テレビの全国放送において、ニュースや番組に取り上げていただいたことが、フェアブランドを1ステージあげ、この入場者数に結びついたものと考えられる。

来場者については、日本人をはじめとする団体の来場が好調で、事前の予約ベースでは30団体を超える日もあったところである。なお、日本人の団体数が増えているのは、全国旅行支援の効果もあると考えている。

また、外国人については、現段階でコロナ前実績の約6割となっている。このうち、外国人の団体予約の約6割が台湾からの旅行者で占めており、台湾からの旅行者増加は、4月からのチューリップ四季彩館来館人数にも表れており、4月15日の立山黒部アルペンルートの全線開通を経て、追い風のままフェアに突入したことによるものと思われる。さらに、コロナの規制緩和を受けてインドネシアからの団体数も増えてきている。

交通については、入場者数に増加に伴い、駐車台数及びシャトルバス乗車人数は、昨年より大幅に増加している。砺波インター方面からの自家用車の誘導は、昨年までの市道太郎丸高道線（直進）優先の誘導から、国道156号との2方向への同時誘導に改善した。また、シャトルバスを「病院駐車場線（イオン発着）」の1路線を、「病院線」、「イオン線」の2路線に分けたことで、スムーズな送迎につながっている。

花の状況については、開幕初日に「満開宣言」をしたが、その後、天候に恵まれるとともに、気温が低温で推移したことから、会場全体ではチューリップの見頃は継続している。また、花の植替えは、昨日で全て終了し、本日からリフレッシュしたチューリップでフェア後半を迎えた。

おかげさまで、予報では天気まわりが良いことから、前半の好調な入場者数をさらに伸ばし、今年度の観光の弾みにしたいと考えている。

5月5日（土）フェア終了後のから12日（金）までは、会場内の片付けや仮設等の撤去のため公園の一部は閉園する。閉園中でもチューリップ四季彩館では10,000本のチューリップをお楽しみいただけるほか、ふわふわドームも利用いただける。

○ 新型コロナウイルス感染症関係の今後の対応について

国から新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金として、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」が増額され、新たに低所得世帯への支援のための「低所得世帯支援枠」が措置された。また、先日、砺波商工会議所・庄川町商工会から物価高騰に伴う生活支援の経済対策や事業者支援についての要望があり、この要望を踏まえ、プレミアム付商品券の発行、今後の物価高克服に向けた生活者支援、中小企業や農業者、社会福祉施設等の事業者支援などを検討し、早急に対応していきたい。

<マスク着用について>

職員については、勤務時間中のマスク着用は個人の判断とする。

ただし、医療機関や関係部署、高齢者等重症化リスクが高い方が利用する施設や乳幼児等が利用する保育施設等マスクの着用が必要と思われる施設については着用する場合がある。来庁者等への着用は求めない。（総合病院は、職員はマスク着用必須、来院者にはマスク着用をお願いする。）

<学校の対応について>

4月からすでにマスク着用は個人の判断となっているが、5月8日から文部科学省が示す「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づき対応していく。

<市立砺波総合病院の対応について>

感染状況を鑑みながら、5月15日から面会制限を一部緩和するための準備を進めている。